

ふいんてっく通信

～ Vol.8 ～

もっと便利に、QRコードの統一規格

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です

nikko am
fund academy

今年10月の消費税増税に合わせて、キャッシュレス手段を使ったポイント還元が始まります。今回は、利便性の向上を目的に登場した、複数のQRコードを一つにまとめるサービスについてご紹介します。

■ QRコードの統一規格で利便性向上

QRコード事業者が乱立する中、利用者側もいろいろな店舗で利用できるようQRコードのアプリを複数インストールしておく必要があり、店舗側でも取り扱うQRコードを複数用意しなければならず、非常に手間がかかっているのが現状です。

そこで利用者^と店舗の利便性向上を目的に登場したのが、複数のQRコード決済を一つにまとめるサービスです。現在、デジタルガレージが提供する「クラウドペイ」とキャッシュレス推進協議会が策定する規格「JPQR」の2つがあります。

基本的な仕組みは、QRコード事業者が加盟店情報など基本的なデータを共通化することで、どの決済サービスかを自動認識して決済処理へと移行するものです。

【QRコード統一規格と準拠事業者】

	サービス開始	準拠事業者
クラウドペイ	2019年5月	d払い、Alipay(2019年9月末から)、WeChat Pay(2019年10月末から)、メルペイ(2020年3月頃)、Line Pay(2020年4月から)
JPQR	2019年8月	auPAY、Origami Pay、JコインPay、d払い、PayPay、メルペイ、Line Pay、楽天ペイ(アプリ決済)、りそなウォレット、銀行Pay(OKIPay、はまPay、ゆうちょPay、YOKAI Pay)

出所:クラウドペイ、一般社団法人キャッシュレス推進協議会のWEBサイト情報などを基に日興アセットマネジメント作成
※2019年9月5日に確認した内容であり、今後変更される場合があります。



※写真、イラストはイメージです

このほか、ネットスターズの「StarPay」は、読み取り端末側で個々のQRコードを自動識別するサービスを提供しています。現在、Line Pay、d払い、PayPay、楽天Pay、auPAY、メルペイ、VIA、Alipay、WeChat Payに対応しています。 ※2019年9月5日にネットスターズWEBサイトで確認した内容です。

今後、QRコード決済などキャッシュレス決済の利便性がさらに向上することになれば、日本のキャッシュレス決済比率は高まっていくとみられます。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントがフィンテックに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。